

T 日程・英語外部試験利用入試 1 限

科 目	ページ
数 学 ①	2～13
数 学 ②	14～39
地 理	40～51
国 語	79～54

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 志望学部・学科によって選択する科目・試験時間が決まっているので注意すること。

志望学部(学科)	受験科目	試験時間
下記以外の学部(学科)	数学①または国語	60分
文学部(日本文)	国 語	90分
文学部(地理)	地 理	60分
情報科学部(コンピュータ科・デジタルメディア)	数学②	90分
デザイン工学部 (建築・都市環境デザイン工・システムデザイン)		
理工学部 (機械工〔機械工学専修〕・電気電子工・応用情報工・ 経営システム工・創生科)		
生命科学部 (生命機能・環境応用化・応用植物科)		

4. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
5. 数学②・国語については、志望学部・学科によって解答する問題番号が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。
6. 数学①②については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
7. マークシート解答方法については、問題冊子を裏返して裏表紙の注意事項を読みなさい。ただし、問題冊子を開かないこと。
8. 問題冊子のページを切り離さないこと。



（五）

●法学部・文学部（哲・英文・史・心理学科）・経済学部・社会学部・経営学部・国際文化学部・人間環境学部・現代福祉学部・キヤリアデザイン学部・GIS（グローバル教養学部）・スポーツ健康学部のいずれかを志望する受験者は、問題（一）（二）（三）に解答せよ。

●文学部日本文学科を志望する受験者は、問題（一）（二）（三）（四）（五）すべてに解答せよ。

（一） つぎの各問いに答えよ。

問一 つぎの各文の空欄に入る語として正しいものをそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- 1 国際情勢は a 卵の危うきにある。
ア 重 イ 落 ウ 割 エ 放 オ 累
- 2 b は陰暦の七月の異称である。
ア 葉月 イ 睦月 ウ 文月 エ 卯月 オ 長月
- 3 「出 c の誉れ」とは弟子が師よりも優れていることを讃えて言う言葉である。
ア 精 イ 藍 ウ 世 エ 郷 オ 人
- 4 「生徒会の審議案件については、先生が直接、生徒から d ください。」
ア お伺いして イ お聞き ウ お伺いになって エ お聞きして オ お伺い
- 5 e 「は国木田独歩の代表作である。」
ア 武蔵野 イ 高瀬舟 ウ 暗夜行路 エ 草枕 オ 蒲団

問一 つぎの傍線部のカタカナを漢字に直し、解答欄に記せ。

- 1 事故や地震などのサイヤクに備える。
- 2 カキユウ的速やかに善後策を講じる必要がある。
- 3 問題は複雑かつタキにわたっている。
- 4 ハンヨウ性のある理論は、さまざまな事象に適用できる。

(二) つぎの文章は、一九九一年二月のソヴィエト連邦崩壊を受けて、国家体制としての社会主義は失敗に終わったと考えざるを得ないという筆者の結論を述べた箇所が続く文章である。これを読んで、後の問いに答えよ。

では、結局のところ、社会主義、あるいはその最終的な形態として予想されていたところの共産主義とは何だったのだろうか。かくも大きな質問にいきなり自分の小さな知恵で答える勇氣はとてもない。ラヴジョイカ下の思想史学派が編んだ『西洋思想大事典』を見てみよう。「社会主義(古代からマルクスまで)」という項目を執筆したサンフォード・アラン・ラコフは「最も簡単な意味では、社会主義とはすべての生産者は結合された労働による果実を等しく分け合うべきだという信念であるが、より深く掘り下げて言うと、社会主義は経済的な定式以上のものであり、まして公正のための処方以上のものである。それは集団としての人間が、疎外あるいは疎遠として考えられているものをその本性にもとづいて克服する能力を持っていると確信していることのひとつの表現である」とまず言う。なにしろ四百字の原稿用紙に換算して六十枚という長大な説明のほんの一部だから、これをもってラコフによる定義とするのも気が引けるのだが、疎外を克服する能力が人間にあるという確信はとりわけ重要であるように思われる。

¹ それをメモとして脇において、² ここでは社会主義を仮に「合理的な方法が存在すると仮定した上で、それによって社会と経済を運営する制度」としてみよう。封建社会が身分制度を固定化した上で上に立つ者の恣意をあまりに多く許し、³ 資本主義が貨幣ないし資本という怪物に多くを委ねているのに対して、社会主義は経済的平等を論理によって実現しようとする。そんなに単純なものではないという左からの異議と、そんなに理想的なものではないという右からの異議を無視して、とりあえずこのまま話を進める。次なる問題は、人間には疎外、すなわち不平等や貧困や抑圧による人間性の制限、を克服する能力があるか、自分たちの社会を合理的な方法で運営する能力があるかということだ。ことが人間の本性に関わるからこそ、社会主義国家の崩壊はどこかで終末論に通底するのである。

労働の果実を平等に分配する。【ア】そのために生産財は社会そのものに所属することにして、製品の交換レートすなわち物

価は最も合理的で全員が納得するように決める。他より多くを持つことはそのまま盗みである。この原理によれば不平等はなくなり、一部による搾取や収奪が行われない以上貧困もなくなり、貧困ゆえの犯罪もなくなって、理想的な社会が実現する。人はそれぞれ自分の個性を十全に開花させることができる。そのはずだった。しかし、そうはならなかった。どこかに間違いがあつたらしい。

社会を一つの自律的な機械と考えてみよう。生産の装置があり、消費の装置があり、それらはそれぞれに一人一人の成員の中にあると同時に分配の機構によって相互にも結ばれている。【イ】生産と交換。充分な生産があつて、それが必要な時と場所へ運ばれて交換されれば、みんなが豊かな消費生活を送ることができる。それがうまくいかなかったのは、生産が充分でなく、流通の機構がきちんと機能せず、その結果消費生活が人々を満足させなかったからだ。もともとそれはそのような方法では機能するはずのないものだったのだろうか。こういう問題について複雑な議論は山ほどある。社会主義経済の文献ならば千棟の書庫を満たしてもまだ余るほどある。どうせ素人論議なのだから、文献には背を向け、徹底して簡素な論理を追ってみよう。なぜ、充分な量の生産と能率的な流通が行われなかったのか。

人が働かなかつた。そう言つては単に勤勉と怠惰の問題になつてしまふ。では、こう言つてみよう——社会主義は人間が潜在的に持っている能力をうまく引き出せなかつた、と。国民が単純労働を充分にしなかつたのではなく、全体のシステムを改善し、みんなの生活が向上するように工夫し、新しいものを作り、新しい技術や材料や生産方法を考案し、明日への労力の投資を今日のうちにする。【ウ】そういうことをしなかつた。流通について言えば、円滑に送るよりも、停滞させ、溜め込み、横に流す動きの方が強かつた。そういう動きは量の多寡によらず全体を混乱させる。百台に一台ずつでも信号を故意に無視する車があれば、交通は完全に麻痺する。そして、個人ならばともかく、一つの社会、億を単位に数えるほどの大きな人口を抱える国が全体として働かなかつたのだとすれば、それは単なる怠惰の故ではなく、そういう制度のもとでは人は働かないものだからと考える他なくなる。

たまたま社会主義が低迷する時期に資本主義の方はおおいに発展した。これも資本主義の国に住む者が勤勉だったからでは

なく、この時期の資本主義が大量生産と大量消費、文化の大衆化や技術革新やマスコミの発達という爆発的な質の転換の時期にあたっていたからである。【工】両陣営が共に貧しければ対立の時代はもつと長く続いたことだろう。高度に発達を遂げた資本主義は、欲望そのものを創生するという新しい段階に突入し、その成果を社会主義国に見せびらかした。マス・メディアが浸透して東側に住む人々の欲望を巧みに刺戟し、動揺を誘った。

それによって二つの体制の違いが明確になった。資本主義社会には人を働かせる力があり、社会主義にはそれがなかった。資本主義では人はとりあえず自分のために働く。労働に対する報酬は具体的であり、なおかつ賭博のようである一定の比率で大ヒットが出るしかけが用意されている。門閥制度が人を縛っていたのに対して、機会均等はやはり人に希望を与える。資本主義はそういう幻想を巧みに大衆に植えた。成り上がることが可能であり、チャンスは誰にでも与えられる。【オ】小額の資本を集めて事業をはじめ、売れる品を作って原価などとは無縁な値段で売り、単なる賃金労働者の給料の額を大きく超える収入を得る機会が、機会だけならば、誰にでもある。この理屈でアメリカは移民たちの夢の国となった。ヒット率は低くても配当額の大きな賭博を人はしたが。新製品一つで市場を席卷する見込みがあるから、企業はイノベーションに励む。努力に対するフィードバックの回路がたしかに存在している。

社会主義は人の本性をあまりにも高く評価していたのではないだろうか。自分の利のためでなく、社会という抽象的なもののために誰もが粉骨碎身して働くこと信じたのではないか。マルクスは、当時の粗野な資本主義の欠点を革命によって一掃すれば、そのまま理想的な社会が現出すると信じていたのかもしれない。目前の問題はよく見えるが、まだ存在しない社会が抱えるであろう欠陥を予想するのは、いかに弁証法的唯物論をもつてしても、容易ではない。

事態はなぜかキリスト教によく似ている。いろいろな意味でマルクス主義はユダヤキリスト教と関わりが深い。人間の性格をあまりに高く評価するという点では特にこの二つはよく似ている。これについては、何もぼくなどが愚考を展開する必要はない。言うべきことのすべてをドストエフスキーが『カラマゾフの兄弟』の中で論じておいてくれたのを思い出せばいいのだ。イワンがアリョーシャに語る有名な「大審問官」の章。キリスト教が最も峻厳で異端審問が最も過酷だった時期のスペイ

んに、キリストがふらりと現れる。人々はすぐに彼と知って、その後につき従う。それをたまたま見た老いた大審問官は彼を捕らえさせ、牢獄へ連行させる。そして、キリスト自身のかつての間違いを正すために自分たちカトリック教会が十五世紀間にわたってどれだけ苦勞をしなければならなかったかを語る。要するに、キリストは人間という弱い存在を買いかぶりすぎたのだと言っているのである。

「この石ころをパンに変えてみるがいい、そうすれば人類は感謝にみちた従順な羊の群れのように、お前のあとについて走りだすことだろう」という悪魔の誘惑をキリストは退けた。パンで服従を買うことを嫌って、人間に自由を与えようとした。しかし、人の本性ははたして自由に値するのだろうか。大審問官はキリストに向かってこう言う——「彼らはまた、自分たちが決して自由ではいられぬことを納得する。なぜなら、彼らは無力で、罪深く、取るに足らぬ存在で、反逆者だからだ。お前は彼らに天上のパンを約束した。だが、もう一度くりかえしておくが、かよわい、永遠に汚れた、永遠に卑しい人間種族の目から見て、天上のパンを地上のパンと比較できるだろうか？ かりに天上のパンのために何千、何万の人間がお前のあとに従うとしても、天上のパンのために地上のパンを黙殺することのできない何百万、何百億という人間たちは、いったいどうなる？ それとも、お前にとって大切なものは、わずかに何万人の偉大な力強い人間だけで、残りのかよわい、しかしお前を愛している何百万の、いや海岸の砂粒のように数知れない人間たちは、偉大な力強い人たちの材料として役立てばそれでいいと言うのか？」（以上『原卓也訳』）

まったく同じことがロシアでは起こったのではなかったか。マルクスとレーニンが「あまりにも人間を尊敬しすぎたために、その行為はかえって彼らにとって思いやりのないものになってしまった」と大審問官ならば言うだろう。大衆が自発的に働かないとなれば、誰か優れた者が働く義務のことを大衆に教え、正しい労働のしかたと量を教え、それを強制してやらなければならぬ。社会への奉仕の姿勢が民衆自身の中から湧いて出ないならば、どこかでそれを作って配付してやらなくてはならない。かくて、党が結成され、官僚システムが作られ、KGBが見張り、ラーゲリが造られる。キリストに従う何万人かが、地上のパンしか求めえない何億人を指導することになる。

はじめてこの部分を読んだ時には、人間の自由とそれに耐えられない卑賤な精神の問題をかくも見事な比喻で語ったドストエフスキーにつくづく感心した。自由の価値はわかるのに、それを担う力は人間たちにはない。次に、何かのはずみで、この大審問官の言葉と「ロシアは誰に住みよいか」という問題を重ねてみた時、共産主義とキリスト教があまりにぴったりと重なるのに驚いた。キリスト教はまだ魂の問題だけを扱うことを建前にしてきたから二千年の間なんとか命脈を保ったが、ロシアに降り立った社会主義はパンの問題を専らとしたから七十年しかもたなかった。

(池澤夏樹『楽しい終末』より)

【注】

*ラヴジョイ

アメリカの哲学者(一八七三—一九六二)。観念史という新しい知的形式を促進した。

*弁証法的唯物論

マルクスが提唱し、エンゲルス、レーニンなどが発展させた、社会主義の支柱となった理論。

*KGB

ソ連の国家保安委員会。情報機関・秘密警察などの役割を果たした。

*ラーゲリ

一般にソ連の強制収容所を指す。

問一 傍線部1「それをメモとして脇において」とあるが、この表現には筆者のどのような意図が込められているか。つぎの中から最も適切なものを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア ラコフによるその定義は多義性のある社会主義の一部にしか触れていないので、忘れない程度に一応の理解をしておいて論を先に進めようということ。

イ ラコフによるその社会主義の定義は農業分野について述べたものであるので、経済全体を考えるためにはもっと大きな視野で考察していこうということ。

ウ ラコフによる社会主義の解説のうちその定義が、特に重要なものを含むと考えられるので、思考のための覚え書きとして考えを進めていこうということ。

エ ラコフによる社会主義の解説のうちほんの一部を取り上げるのは、ラコフに対して失礼であるので、正面から考察の対象とするのは避けたいということ。

オ ラコフによるその定義は社会主義の本質を突いたものであり、極めて重要な考え方であるので、それを真理として記憶にとどめて論じていこうということ。

問二 傍線部2「封建社会」とあるが、つぎに挙げる本文中の語の中から、これと最も深い関係を持つものを選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 貧困 イ 能力 ウ 怠惰 エ 門閥 オ 粗野

問三 傍線部3「資本主義」とあるが、本文中に述べられている資本主義の特徴として適切なものをつぎの中から二つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 自分が作った商品が広く受け入れられて売れるようになれば、出自や身分に関わりなく経済的に豊かになれる。
- イ 恒常的な技術革新やマスコミュニケーションの発達が社会全体を豊かにし、貧困に苦しむ人がほとんどいなくなる。
- ウ 人々が社会全体のために骨身を惜しまず働いたことで、大量生産と大量消費が可能になり、経済が大きく発展した。
- エ 成功するチャンスは誰にでも与えられており、その富を社会の公共財とすることで、人々がみな豊かに生活できる。
- オ 生活必需品のみならず、必要でなくとも欲しいと思わせる商品を作るなど、人々の欲求をかき立てるようになった。

問四 傍線部4「大審問官」について述べたつぎの文のうち、誤っているものを一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 大審問官は、人間が元来無力でかよわく、罪深く卑しい存在であるということを考慮しなかったキリストが、人間に大きすぎる信頼を寄せたことの過ちを非難している。
- イ 大審問官は、キリストが救おうとしたのは自身の強い意志によって生きていける人間だけで、そのほかの多くの弱い人々を結局は見捨てたのだと糾弾している。
- ウ 大審問官は、人間たちが自由よりもパンを求める存在であることを理解し、キリストが与えようとした自由など多くの人々にとって耐えられないものだとしてキリストを論じている。
- エ 大審問官は、石をパンに変えるという奇跡を示すことができなかつたキリストに対して、それが結局は人間を苦しめることになったとして批判している。
- オ 大審問官は、キリストの行いがかえって人々にとってわざわざを生み、そのために教会が長い間にわたって苦勞させられてきたことを責めている。

問五 傍線部5「キリスト教はまだ魂の問題だけを扱うことを建前にしてきたから二千年の間なんとか命脈を保ったが、ロシアに降り立った社会主義はパンの問題を専らとしたから七十年しかもたなかった」とあるが、どういふことか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア キリスト教は人間に自由を与えるものであったため、まだしも永い間世界中の人々に支持されてきたが、社会主義は人間を束縛する方向に向かったため、短命に終わってしまったということ。

イ キリスト教は宗教上の対立を解消したため、ともかくにも永きにわたって世界に君臨し続けたが、社会主義は食料不足という、より深刻な問題を生んだため、人々に背かれたということ。

ウ キリスト教は精神の領域に関係するものであったため、からくも永い年月信仰され続けてきたが、社会主義は経済的な日常生活に直結するものであったため、短い間しか続かなかつたということ。

エ キリスト教は信仰の在り方を問題としたため、なんとか人々に永く帰依され続けることができたが、社会主義は食糧生産の多寡だけを問題にしたため、早く限界を迎えてしまったということ。

オ キリスト教は人間の死後の魂の救済を目標とするため、とりあえず二〇世紀の間人々を従え得たが、社会主義は生産性の向上を目標としたため、百年ももたずに崩れてしまったということ。

問六 本文中からはつぎの一文が抜けている。この一文が入る最もふさわしい箇所を、本文中の【ア】～【オ】から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

個人は一種類をたくさん生産して社会に提供し、その見返りに社会から多くの品種を少しずつ受け取る。

国語

問七 筆者はソヴェエト連邦の社会主義体制がうまくいかなかった理由をどのように考えているか。本文全体の内容を踏まえ、つぎの形式にしたがって、三十五字以上、四十五字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

ソヴェエト連邦の社会主義体制は、

から。

〔三〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

凱旋門がいせんもんといえは、多くの人はパリのエトワールの凱旋門（一八三六）を思いだすだろう。もつとも、これが一番有名だからであつて、凱旋門という形式は、そもそも古代ローマ時代に発明されたビルディングタイプである。すなわち、皇帝が遠征して戦争に勝利したことを記念するための建造物としてつくられたものだ。この形式が一九世紀にパリで模倣されたのは、ナポレオンの戦勝を記念するためであり、その目的はよく似ている。

ルネサンスの時代は、古代文化の再生をめざしたが、建築の場合、イタリアではローマ時代の遺跡が数多く残っていたから、これを観察し、スケッチを描き、設計に役立てることが推奨されていた。例えば、マントヴァにあるアルベルティが設計したサンタンドレア聖堂（一五二二）は、興味深いファサードをもつ。よく見ると、ペディメント（三角形の破風はぶか）の下が凱旋門のモチーフになっているのだ。現在のわれわれは、このデザインをあまり不思議に思わないかもしれない。古典主義の教会はめずらしくないからだ。が、実は古典主義を積極的にキリスト教の建築に使うようになったのは、ルネサンス以降である。それ以前の教会は、ロマネスクからゴシックへと、独自の様式を發展させていたからだ。もともと凱旋門は皇帝の勝利を記念する形式であり、キリスト教とは関係ない。それどころか、新しく誕生したキリスト教を迫害したのは、まさにローマ帝国である（四世紀になつて公認したが）。

すなわち、本来、古典主義は異教の神々のための建築だった。こうした前提を踏まえると、サンタンドレア教会がいかに過激なデザインの試みなのか理解されるだろう。おそらく、ここでは神の栄光を讃えるものとして凱旋門のモチーフが再解釈されている。建築は絵画や文学と違い、具体的にメッセージを伝えるものではなく、あくまでも抽象的な表現形式である。だからこそ、そこに込める意味は状況によつて変化することが可能だ。

古代ローマは後世にコピー*される様々なデザインを生みだした。例えば、パネオン神殿（一三五）は、歴史上もつとも模倣された建築だろう。トツプライトをもつ巨大なドームがあまりにも完全な形態だったからだ。身近なところでは、最近オリジ

ナルに復元され、失なわれたが、戦後に補修された状態の東京駅のドーム天井もそのひとつである。またトラヤヌスの円柱は、ウィーンのカールス教会(一七三七)の正面にほぼ同じ高さの約三三メートルで模倣されており、しかも二重化し、左右に配している。これも本来はトラヤヌス皇帝のダキア遠征を描く浮き彫り帯が円柱に巻きついていていたが、教会では聖カールの生涯を伝えるものに読み替えられた。現在、模倣という点、最近の流行を追いかけるものが想像されがちだが、ルネサンス以降の感覚では、古代ローマは偉大な建築を達成した見習うべきデザインだと考えられていた。またローマ建築の模倣は、権威づけの意図もあつただろう。

現在、イスタンブールのアヤソフィア(五三七)は博物館である。しかし、これを鑑賞する観光客はイスラム教のモスク風だと感じるだろう。その理由は、周囲に四本のミナレット(塔)が付随していることながら、トルコのモスクがこれと類似した形態をもつからだ。例えば、イスタンブールのブルーモスク(一六一七)はアヤソフィアと酷似した構造をもつ。中央に巨大なドームを据え、それを両側から半ドームで支え、さらにそれぞれの半ドームを三つの小さな半ドームが受け止める構造の形式はまったく同じである。²トルコのモスクはオリジナルのアヤソフィアを千年後に模倣したデザインと言えるだろう。もつとも、アヤソフィアがモスク風に見えるというのは、転倒した認識である。なぜなら、もともとアヤソフィアはキリスト教の教会として建設されたものだからだ。しかし、ローマ帝国が崩壊した後、この地がイスラムの領土となり、これを参照して多くのモスクがつくられたのである。

アヤソフィアも巨大な空間をもつ立派な建築だったことから、破壊をまぬがれ、モスクに転用されていた。その際、モザイクによるキリスト教の聖像は削りとられ、モスクの三点セットといふべきミフラーブ(メッカの方角を示す窪み)やミンバル(説教壇)、そしてミナレットが付加されたのである。中国の西安を訪れると、イスラム教徒が多いことから、清真寺と呼ばれるモスクがたっているが、これも古い建築は、われわれが一般的に想像するモスクのイメージとは全然違う。むしろ、中国の伝統的な建築のつくり方を踏襲しつつ、アレンジしたものだ。つまり、外観のデザインがモスクという建築を規定しているわけではない。宗教的に大事な要素であるミフラーブ、ミンバル、ミナレットを備えることによって、どのような箱でもモスク

になりうるのだ。イスラム教が世界に広がるなかで、現地の建築技術を吸収し、それぞれの地域性をもったモスクがつけられている。

これとは逆に外観のイメージが特に重視されるのは、日本のウエディング・チャペルだろう。以前、筆者は『結婚式教会の誕生』(春秋社、二〇〇七)において、様々な事例を分析したが、本物の教会であることよりも、教会らしさを求められることが、その特徴である。日本におけるキリスト教の布教は成功しているとは言いがたく、信者は人口のパーセントしかないにもかかわらず、クリスマスやバレンタインもそうだが、恋愛資本主義のアイテムとしてキリスト教は消費されており、結婚式を行うカップルの六割以上が教会式を希望している。ゆえに、この大きなギャップが、ウエディング・チャペルの増加をもたらした。筆者の調べたところでは、ラスベガスの方が先にウエディング・チャペルが登場しているが、アメリカはキリスト教が強い国だから、ギャングルの街という例外的な場所に登場したのだと思われる。一方、非信者ばかりの日本では、全国津々浦々に結婚式教会がつけられる。

本物の教会をまわると、住宅の一部やビルだったり、モダンなデザインなど、外観は様々である。なるほど、キリスト教が解禁された近代は、ゴシック様式などの教会が建設されていたが、現代では必ずしもヨーロッパの教会風のデザインにこだわっていない。だが、ウエディング・チャペルは、イメージこそが重要であり、多くがゴシック様式、続いて古典主義を採用している。ただし、眺めが良い場所では、その演出が必要となるので、建築家が現代的なデザインを行う。すなわち、

X

こそが、ヨーロッパ風の模倣にこだわっている。記念写真のための建築なのだ。ただし、正確なコピーなのかという点、心もとない。結婚情報誌などの謳い文句で、〇〇教会をイメージしたなどと書かれていても、実際にはかなりデザインは違う。ともあれ、海外の人が日本の映画やドラマを鑑賞すると、結婚式のシーンには必ず教会が登場するので、日本人にはキリスト教の信者が多いと誤解するだろう。

ポストモダンの建築は、モダニズムを批判的に乗り越えるために、一度は否定された歴史的なデザインを再導入した。これは模倣というよりは引用に近いが、磯崎新のつくばセンタービル(一九八三)は、ミケランジェロのカンピドリオ広場、一八世

紀にルドゥーがよく用いた鋸状のこぎりの円柱、パラディオ風の開口など、西洋建築のコラーージュ*によって構成されたものである。ただし、古代をリスペクトしたルネサンスのように、権威づけを目的としたものではない。むしろ、磯崎好みのデザインを恣意的にサンプリングし、「本来の意味が失われ、新たに投げ込まれた文脈のなかに、それが波紋のように別種の意味を発生させる、その作用こそが注目される」と述べている『建築のパフォーマンス』PARCO出版局、一九八五。すなわち、ポストモダンでは、特定のものだけが選ばれるのではなく、あらゆるものを引用の対象とすることで、権威の解体をめざしていた。

つくばセンタービルと同じ一九八三年に誕生したのが、東京デイズニーランドである。そうした意味で日本のポストモダン元年と言えるかもしれない。テーマパークも、建築を模倣することで様々な世界観を表現する場所だ。イツ・ア・スモールワールドのファサードがまさに記号化された世界の建築を寄せ集めたものになっている。また中央の城が、ドイツのノイシュヴァンシュタイン城を模倣していることもよく知られているだろう。ただし、オリジナルに一番似ているのはカリフォルニアのデイズニーランドであり、東京のシンデレラ城は縦長に引き伸ばされている。さらにパリのユーロ・デイズニーランドの城になると、アニメ的というか、かなりデフォルメされたファンタスティックなデザインに変容している。おそらく、アメリカや日本と違い、国内に本物の古城が多く存在するので、へたに似せるよりも、ありえない空想的な城にした方が付加価値をもつと考えたからだろう。

世界の建築をテーマとした空間も、古代ローマに先例がある。ハドリアヌスのヴィラ（一三八）は、皇帝が遠征で出かけた各地の風景の記憶を再現したものだ。ただし、形態的な類似性は追求されておらず、あくまでもイメージとしての建築群である。正確な再現としては、深堀しんまの建築テーマパーク「世界の窓」が興味深い。日本の東武ワールドスクエアはすべて二五分の一の縮尺だが、ここではスケールを統一させず、かなり大きいものが存在する。例えば、一分の一の桂離宮や三分の一のエッフェル塔だ。後者はオリジナルが三〇〇メートルだから、一〇〇メートルの高さであり、周囲から目立つランドマークになっている。となると、これはもはや見下ろす縮小模型ではなく、立派な塔と呼べるだろう。登って展望する場合、高さの違いは重要だが、外から眺めるオブジェとしての塔は、ある意味でそもそも模型的な存在かもしれない。だからこそ、エッフェル塔のミニチュ

アがあれだけ大量に生産され、観光の記念品として売れているのだ。

(五十嵐太郎「建築の模倣における形式と意味」より)

【注】

*ファサード 建物の正面。

*トツプライト 天窓。

*パラディオオ アンドレアー・パラディオ(一五〇八—一五八〇)。ルネサンスの代表的建築家。

*コラージュ 現代絵画の技法の一つ。さまざまな素材を組み合わせて画面に貼り付け、特殊な効果を出す。

問一 傍線部「興味深い」とあるが、筆者はどのような点について興味深く感じていると考えられるか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 古代ローマ時代の遺跡を設計の参考としたことによつて、図らずも、サンタンドレア聖堂が異教の神々を讃えるためのモチーフを有してしまつた点。

イ ルネサンス時代が古代文化の再生を目指したという前提に立つならば、サンタンドレア聖堂はナポレオンの戦勝を讃える建築様式と再解釈することが可能である点。

ウ キリスト教教会のサンタンドレア聖堂が、キリスト教を迫害した古代ローマ時代の戦勝記念建造物のデザインを部分的に用い、神を尊崇するモチーフとして利用している点。

エ 建築デザインの歴史という観点から考えると、国教をローマ神話からキリスト教に変更した、イタリアにおける宗教史の流れが、教会の建築様式からも明らかになつてくる点。

オ ロマネスク様式、またゴシック様式が古典主義と融合していく建築史の展開において、宗教上の理由から、イタリアの教会がより抽象的で、より過激な表現形式を追求するようになっていった点。

問二 傍線部2「トルコのモスクはオリジナルのアヤソフィアを千年後に模倣したデザインと言える」とあるが、アヤソフィアのデザインを模倣したトルコのモスクがなぜモスクとして成立し得るのか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア モスクとは、建築物の本来の用途がどのようなものであったとしても、手を加えることなくモスクにそのまま転用できる柔軟性を持っている宗教施設であるから。

イ もともとキリスト教会であったアヤソフィアの巨大ドームは、モスクの様式の典型でもあり、キリスト教教会としてもモスクとしてもみなせる建築物であったから。

ウ アヤソフィアは博物館であったが、トルコがイスラムの領土となった際、その外観のデザインを改造してモスク化を進め、アヤソフィアをトルコモスクの規範としたから。

エ モスクの形式に必要な三つの要素が付加されたため、アヤソフィアはキリスト教教会の建築様式を残しながらも、モスクとしての機能を果たせる建築物となったから。

オ ローマ帝国崩壊後、トルコがイスラム化すると、キリスト教が廃れて、アヤソフィアのキリスト教的要素も次第に消失したため、そのままモスクとして使用できる状態になったから。

問三

空欄

X

には、本文中の「本物の教会」と対照的な意味を持つ語句が入る。あてはまる語句として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア モダニズムの教会

イ 信者なき教会

ウ 現地の建築技術を吸収した教会

エ 幻想的デザインの教会

オ 若者が好むタイプの教会

問四 傍線部3「模倣というよりは引用に近い」とあるが、どういう意味か。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア ルネサンス時代の特徴的なデザインを再導入することにより、建築の権威づけを行うとともに、近代的な機能面を強化したという意味。

イ 日本独特の建築様式にさまざまな西洋建築の要素を取り込み、それまでのモダニズム建築ではなしえなかった文化的融合を行ったという意味。

ウ 歴史的な建築物の象徴的なデザインを断片化し、権威的な意味合いを失ったそれらの要素を用いて、現代建築のデザインとして再構築したという意味。

エ 西洋を代表する建築物を具体的に指示してデザインに取り込み、写実性を高めることにより、イメージのみが先行していた、従来のヨーロッパ風の模倣建築物を批判したという意味。

オ ヨーロッパのデザインを恣意的にサンプリングするというモダニズムの手法を踏襲し、それらが有している歴史性を消し去ることで、ポストモダン建築物としての価値を高めているという意味。

問五 筆者は、デイズニーランドの建築はどのような点でポストモダンのか。つぎの形式にしたがって、四十字以上、五十字以内でまとめ、解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

デイズニーランドの建築は、
ある。

という点でポストモダンの

問六 つぎの中から本文の内容に合致するものを一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア ルネサンス時代における古代ローマ建築の模倣は、本質的な意味において、アヤソフィアがモスクに転用された事象と同等だと考えられ、他宗教の象徴的要素をあえて取り込むことによって宗教弾圧を行おうという意図がうかがえる。

イ 建築物に過去の建築の外観的要素が採用された意図は、歴史的・宗教的背景を勘案することで明確にできるが、ラスベガスのウエディング・チャペルは、社会制度という視点を導入して考察しなければ説明できない点で、特異である。

ウ 日本ではキリスト教教会は宗教施設ではなく、結婚式をあげる場という恋愛を彩るアイテムとしての側面が強く、記念写真の背景としてふさわしいものが好まれるため、ヨーロッパの教会を忠実に模倣して建築されている。

エ ポストモダン建築の手法は「否定された歴史的デザインの再導入」が主流だが、日本においては、モダニズム建築を批判的に乗り越えるため、「引用」という独自の手法による発展を遂げており、世界的に注目されている。

オ 世界の建築をテーマとするテーマパークは現在、各地にあり、有名建築を模倣したオブジェ的建築物の目的や楽しみ方は、再現性や大きさの違いによらず、旅の記念として人気がある小型の模型のそれと共通する面がある。

マークシート解答方法についての注意(共通事項)

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

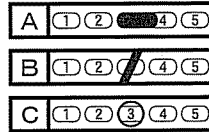
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

「数学②」(情報科学部・デザイン工学部・理工学部・生命科学部)

マークシート解答上の注意

「数学②(情報科学部・デザイン工学部・理工学部・生命科学部)」は「数学①(それ以外の学部)」と異なる科目です。

問題中の ア, イ, ウ … のそれぞれには、特に指示がないかぎり、- (マイナスの符号)、または0~9までの数が1つずつ入る。当てはまるものを選び、マークシートの解答用紙の対応する欄にマークして解答しなさい。

ただし、分数の形で解答が求められているときには、符号は分子に付け、分母・分子をできる限り約分して解答しなさい。

また、根号を含む形で解答が求められているときには、根号の中に現れる自然数が最小となる形で解答しなさい。

[例] $\frac{\text{ア} \sqrt{\text{イ}}}{\text{ウエ}}$ に $\frac{-\sqrt{3}}{14}$ と答えたいときには、以下のようにマークしなさい。

ア	●	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
イ	○	0	1	2	●	4	5	6	7	8	9
ウ	○	0	●	2	3	4	5	6	7	8	9
エ	○	0	1	2	3	●	5	6	7	8	9

※ 「数学①」の選択肢には- (マイナスの符号) はありません。